

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名（ 城山特別支援学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		子どもたちの笑顔があふれ、豊かな学びができ、生活力が高まる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	多くの人と出会い、たくさんの経験や体験を通して、自分の生き方を選択できる力をつけ、豊かな生き方ができる子ども
	ありたい 教職員像	○目指す学校像を念頭に置き、子どもの可能性を信じ、子どもの生き方や考え方を尊重し、子どもに寄り添い、子どもの力を伸ばすことに取り組める教職員 ○子どもや保護者、同僚との対話を重ね、豊かな関係を築くことができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<児童生徒> ○一人ひとりの性格や特徴、障がいを理解し、世界が広がる生き方を応援してほしい。 <保護者> ○子どもたちが楽しく生き生きと過ごせる環境を作り、社会の一員として生きる力を身につけさせてほしい。 <地域社会> ○子どもたちが様々な体験や経験を積み、社会の一員として地域で生活できるよう、子どもたちの活動を広げてほしい。
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	<児童生徒> ○毎日安心して楽しく学校生活を送りたい。 ○自分の夢や願いをかなえる手助けをしてほしい。 <保護者> ○安心安全で楽しい学校生活を送らせてあげてほしい。 ○子どもの育ちを共有し、信頼して様々な相談ができる存在であってほしい。 <関係諸機関> ○児童生徒が安全安心に学校生活を送れるよう支援する存在であるとともに、関係者間で連携しながら成長を見守るパートナーであってほしい。 <地域社会> ○学校の活動内容について十分に知ることができ、活動に協力できる。
	連携する相手への要望・期待	<児童生徒> ○体調を整え元気に楽しく登校してほしい。 ○自分の夢や将来像に向かってチャレンジする意欲を持ってほしい。 <保護者> ○子どもたちが充実した学校生活を送るうえでのパートナーであってほしい。 ○教職員との信頼関係のもと、子どもたちの生き方を応援してほしい。 <関係諸機関> ○子供たちの成長をともに見守るパートナーとして本校教育に協力いただきたい。 <地域社会> ○ともに子どもたちを育むための一員となしてほしい。
(3) 前年度の学校関係者評価等		○「学校満足度」はずっと協議を続けてきたテーマだが、最後は保護者と担任との関係性に尽きる。保護者としてどこまで学校に求めて良いか迷う方は大勢いるはず。 ○担任と子ども・保護者が1対1の経路で結びつくのではなく、複数の経路が持てると良い。教員側も単独での対応は煮詰まる。学校側も保護者側も「みんなで子どもたちをみている」という雰囲気大切。柔らかな連携こそ重要。 ○学校と保護者が子どもの成長と一緒に喜びあえるか、教育的価値を共有できるかが大切。そのためには個別の指導計画や教育支援計画を絡めて話し合えると良い。 ○防災は喫緊の課題。家庭・地域との連携を視野に、今できることを冷静に捉えた上で防災マニュアル等も総点検が必要。薬の備蓄等も病院と連携を図る必要あり。

(4) 現状と課題	教育活動	○「個々の教育的ニーズへの対応」について、「学校満足度調査」の指標に総合的な満足度を導入したため、結果的に目標値を大きく下回った。今後保護者のニーズをより真摯に受け止め、教育実践に還元していくことが必要。 ○「児童生徒の尊厳を重んじる人権教育の推進」では、コロナ禍の影響が後を引き居住地校交流が目標達成に至らなかった。あらためて積極的な取組が必要。 ○「体験を重視したキャリア教育の充実」は、新規の保護者向け研修会の開催も含め、全指標で一定の成果を上げることができた。今後も取組の継続・発展が必要。 ○「安心安全の確保と防災等危機管理の推進」は、直近の震災例を教訓に抜本的な防災対策等を進める必要があることから、保護者や地域と課題を共有し、新たに根本的な対応策が不可欠。
	学校運営等	○「信頼される学校作り」「地域への情報発信とセンター的機能の充実」については概ね目標達成されたことから、引き続き明確な目標設定と着実な進捗が必要。 ○「働き方改革をふまえた働きやすい職場環境づくり」では、過重労働等の改善を一定進捗できた中、会議の短縮化に課題が残った。今後の改善につなげていく具体的な工夫が必要。

3 中長期的な重点目標

教育活動	○統一校務支援システムの活用により、児童生徒の多様な教育的ニーズを丁寧に把握するとともに、より緊密に保護者・関係機関との連携を図ることで「個別的教育支援計画」等の有効な活用を図りたい。特に教科学習と自立活動を明確に整理した教育課程を展開し、個に応じた丁寧な指導を進めたい。また「学校満足度調査」は継続し、保護者のニーズを真摯に受け止めていきたい。 ○個々の児童生徒が自己肯定感を高め、適切に仲間作り、人間関係作りができるよう人権教育を推進するとともに、交流及び共同学習の促進によって児童生徒が地域で生き生きと生活できる姿をめざしたい。特に居住地校交流については相手校含め実施しやすい進め方を模索していきたい。 ○キャリア教育の充実には保護者・関係機関等の協力が不可欠なことから、医療・福祉・労働等関係諸機関と緊密に連携することで児童生徒の将来を見据えた自立と社会参加を促進していきたい。 ○児童生徒の安全安心な学校生活を実現するため、日常の医療面に係る留意に加え、感染症や自然災害等への備えも含めた教育環境の整備を推進したい。特に防災等危機管理については保護者や地域と現実的な課題を共有し、実効性ある対策を速やかに進めていきたい
学校運営等	○「信頼される学校であるための行動計画」をふまえ、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に取り組むことでコンプライアンス遵守の徹底や人権意識の向上を図りたい。特に重度の子どもたちに寄り添う教職員が感じる特有の窮迫感の軽減につながる研修を模索したい。 ○地域に根ざした特別支援学校として、センター的機能を発揮し、中勢地域の特別支援教育、特に肢体不自由教育の専門性に基づく各種支援を展開したい。 ○全教職員が生き生きと仕事ができる風通しの良い職場風土を醸成するとともに、学校全体の業務の進め方（例えば効率的な会議運営）を点検、改善することで教職員の業務の平準化を図るなど、教職員の働き方改革に留意した取組を推進し、働きやすい学校をめざしたい。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
個々の教育的ニーズへの対応	○保護者との教育的価値の共有に基づく「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を丁寧に作成し、児童生徒の発達段階や身体状況に即した系統的な指導を進める。 ○教育課程を適切に運用し、授業力、指導力の向上に係る学部や縦割りの研修を積極的に実施し、その充実を図る。 【活動指標】 ①的確な実態把握と将来を見通した個別目標の設定 ②学習の系統性を重視した授業改善、観点別評価の実施 ③現在研究中の教育課程の妥当性・実効性の検証 ④保護者対象「学校満足度調査」による教育活動の評価 【成果指標】 ①学部・クラス内における「個別の指導計画」等の共通理解と指導方針の点検及び保護者との共有：随時 ②授業力向上に係る学部・縦割研修の実施：各部10回以上 ③教育課程に係る公開研究会の開催：11月 ④保護者対象「学校満足度調査」結果に「総合的に満足している」と回答した割合：90%以上	成果指標①：達成 個別の指導計画の点検 各学部：3回 成果指標②：達成 授業力向上研修 学部研修：7回 縦割り研修：4回 成果指標③：達成 公開研究会の開催 11/29：102名参加 成果指標④：達成 学校満足度調査 回答割合：94.4%	
児童生徒の尊厳を重んじる人権教育の推進	○個々の児童生徒が自己肯定感を高め、適切に仲間作り、人間関係作りができるよう支援する。 【活動指標】 ①人権週間やいじめ防止月間の取組を中心に仲間を大切にする活動の推進 ②障がいのある子と障がいのない子の交流及び共同学習による相互理解の推進 【成果指標】 ①仲間づくりを大切にした児童生徒会活動の実施：年7回 ②居住地校交流の実施：一人あたり3回以上	成果指標①：達成 生徒会活動：7回 成果指標②：達成困難 居住地校交流：14回 2回…小5名 1回…小2名、中2名	
体験を重視したキャリア教育の充実	○児童生徒の将来を見据え、自己の経験がキャリアとして積み上がるよう体験的な学習を推進する。 【活動指標】 ①計画的、段階的な校外学習、宿泊学習等の実施 ②系統的、段階的な現場実習の実施 ③児童生徒の進路実現に向けた進路懇談・支援会議等の開催 ④児童生徒の進路指導に係る情報発信 ⑤保護者向け進路研修会等の企画立案 【成果指標】 ①体験的な活動を含む校外学習：各学部1回 ②自己の進路決定につなげる職場実習：高等部1人1回以上 ③進路懇談・支援会議の実施：対象者1人1回以上 ④進路通信「城山コラボ」の発行：年間6回以上 ⑤保護者向け進路研修会・施設見学会の開催：年2回以上	成果指標①：達成 校外学習 各学部2回ずつ実施 成果指標②：達成 高等部職場実習 1人1回以上実施 成果指標③：達成 対象者：7名に実施 進路懇談：4名 支援会議：3名 成果指標④：達成 進路通信発行：6回 成果指標⑤：達成 保護者向け研修：4回	

安心安全の確保と防災等危機管理の推進	○児童生徒の安心安全な学校生活につながるスクールバスの運行、医療的ケアの実施、防災対策の取組を推進する。 【活動指標】 ①スクールバスの安全な運行とマニュアルの見直し ②-01 医療的ケアの安全安心な実施 -02 個別の緊急対応マニュアルの見直しと訓練の実施 ③現実的な防災を想定した避難訓練の実施 【成果指標】 ①スクールバス委員会による運行上の課題解決とマニュアルの点検及び見直し：随時 ②-01 医療的バックアップ委員会による安全確認：隔月 -02 緊急対応マニュアルに基づく訓練の実施：4回 ③-01 発災種別毎の避難訓練の実施：年3回 -02 保護者引渡、スクールバス避難の訓練実施：各1回 -03 巨大地震を想定した対応マニュアルの改善：年度内	成果指標①：達成 S B委員会開催：6回 成果指標②-01：達成 医バック委員会：8回 成果指標②-02：達成 緊急対応訓練：4回 成果指標③-01：達成 避難訓練：3回 成果指標③-02：達成 保護者引渡訓練：1回 S B避難訓練：1回 成果指標③-03：達成 マニュアル：改善作業中	
---------------------------	---	--	--

改善課題

- 「個々の教育的ニーズへの対応」について、教科学習中心の教育課程について各種研修を積み重ね、全教職員が共通理解を図る中で公開研究会を開催し、成功に導くことができた。今後も肢体不自由教育の専門性向上につながる研究を展開する必要がある。また「学校満足度調査」結果はようやく目標値を上回ることとなったが、引き続き透明度の高い学校運営を心がけ、保護者のニーズを真摯に受け止めていくことが求められる。
- 「命を大切に教育、人権教育の推進」では、今年度も居住地校交流が目標達成に至らなかった。感染症の不安は軽減されつつあるが、必ずしも積極的な交流には発展しておらず、オンラインの有効活用など相互に取り組みやすい方法を検討・模索していく必要がある。
- 「体験を重視したキャリア教育の充実」では、全ての指標について目標達成でき、一定の成果を上げることができた。保護者向け研修会の開催も含め、学校と家庭が緊密に連携した取組を継続・発展させていく必要がある。
- 「安心安全の確保と防災等危機管理の推進」は、本校教育の基盤を担保することであり、目標が一定達成できた。防災対策等では能登の震災や南海トラフ巨大地震情報発令をふまえ、実効性の高い対策と対応マニュアルを根本的に編成し直す取組を開始している。今後、学校の福祉避難所化等も視野に入れ、引き続き保護者や地域と課題を共有し、現実的な対策を進めていくことが求められる。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
信頼される学校作り	○コンプライアンス遵守の徹底や人権意識の向上により、信頼される学校づくりを推進する。 【活動指標】 ①学校信頼向上委員会や人権教育担当による教職員のコンプライアンス徹底の取組 ②個人情報の保護、管理の徹底 【成果指標】 ①児童生徒の尊厳を重視した人権研修の開催：年2回 ②不祥事チェックシートの実施：各学期1回	成果指標①：達成 人権研修：5回 成果指標②：達成 チェックシート：3回（各学期）	
地域への情報発信とセンター的機能の充実	○地域の特別支援教育の推進に寄与するために積極的な情報発信に努める。 ○地域の小中学校等からの要請（主として肢体不自由教育に関わる内容）に応じた支援を展開する。 【活動指標】 ①学校HPによる情報発信と掲載内容の充実 ②センター的機能による地域の専門性向上の推進 【成果指標】 ①学校HPの更新：10回以上 ②地域の小中学校に対する教育相談等回数：5回以上	成果指標①：達成 学校HP更新：16回 成果指標②：達成 地域支援：6回	

働き方改革をふまえた働きやすい職場環境づくり	○全教職員が生き生きと仕事ができる風通しの良い職場風土を醸成する。 ○学校全体の業務内容を見直し、精選することで教職員の業務の平準化を図る。 【活動指標】 ①本校「教職員満足度調査」による評価 ②日常の教育活動を率直に話し合えるミーティングの開催 ③各学部、校務分掌、委員会等における継続的な業務精選等に係る検討 ④働き方改革の取組 時間外勤務時間の縮減 ⑤働き方改革の取組 計画的な休暇取得の促進 ⑥働き方改革の取組 提示退校日の設定 ⑦働き方改革の取組 効率的な会議運営による時間内終了 【成果指標】 ①「教職員満足度調査」における「日々の仕事へのやりがいや楽しみを感じる」と回答した割合：80%以上 ②小グループでのオフサイトミーティングの実施：2回 ③各学部、校務分掌、委員会等における業務精選等に係る協議：随時 ④-01 1人当たりの月平均時間外労働時間：30時間以下 -02 年360時間を超える時間外労働者の人数：0人 -03 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数：0人 ⑤1人当たりの年間休暇取得日数：昨年度比1日増 ⑥定時退校日に退校できた教職員の割合：80%以上 ⑦会議の効率化（放課後1時間以内の会議終了）：100%	成果指標①：達成困難 満足度調査：79.2% 成果指標②：達成 小Gミーティング：3回 成果指標③：達成 業務精選協議：随時 成果指標④-01：達成 月時間外：2.5時間 （前年度比0.2時間減） 成果指標④-02：達成 年時間外：0人 成果指標④-03：達成 月時間外：0人 成果指標⑤：達成困難 年間休暇：18.5日 （前年度比1.5日減） 成果指標⑥：達成 定時退校：99.8% （前年度比4.0%増） 成果指標⑦：達成 1時間以内の会議：100% （116/116回） （前年度：83%）	
------------------------	---	---	--

改善課題

- 「信頼される学校作り」「地域への情報発信とセンター的機能の充実」については概ね目標が達成されたことから、引き続き明確な目標を設定し、着実に進めていく必要がある。
- 「働き方改革をふまえた働きやすい職場環境づくり」では、過重労働等に関して前年度比で一定の改善あるいは維持につなげることができたが、「教職員満足度」が目標達成に僅かに届かなかった。公開研究会の開催など新規の取組もあり見通しを持った主体的な学校運営への参加ができなかったことが要因として推測される。また年間休暇取得日数についても昨年度比で目標達成に至らなかった。これらのことから全ての教職員が相互に情報を共有しあい、見通しを持って主体的に業務に参画できる気運や風土の醸成を心がけ、働きやすい職場作りを進めていく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	●「学校満足度」については数値が向上しており良い傾向と言えるが、以前から話題にしているように例えば10段階評価を用いて学部別に実施したり、学校MSの項目と細部まで連動させたりすることで、より詳細かつ実用的な分析が可能になると思われる。ただし本音が出せる調査手続きになっていることは大前提として大切にすべき。 ●コンプライアンスの徹底については学外参観者を校内に招き入れる「学校の見える化」や、「不適切な指導セルフチェックシフト」による注意喚起は必要な視点であり、今後も効果的に継続しつつ、常に見直しのきく姿勢で進めるとよい。 ●居住地校交流の実績を考えると必ずしも対面に拘るのでなく、ICT機器を活用したオンライン交流等も柔軟に導入すべき。保護者としても居住地校交流は非常に貴重な機会と捉えており、可能であれば事前に交流内容の希望が調整できる仕組みにしていきたい。 ●防災は喫緊の課題でありLINE活用による安否確認システムは良いと思う。今後、実効性のある防災マニュアルの再構築や、今後の「子ども福祉避難所」への展開について、地域ニーズの把握も含めて期待したい。
--------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	●教科学習と自立活動を整理した教育課程の運用を進める中、今後は「個別の教育支援計画」等の有効な活用を意識しつつ、肢体不自由教育の専門性に根ざした教育をより丁寧に進めたい。「学校満足度調査」は保護者ニーズを把握するツールとして今後も適切に運用し、学校と家庭が相互に教育的価値を共有できる取組を進めたい。 ●居住地校交流は従前の方法や価値観をあらためて見直すことで、本校と相手校の両方が取り組みやすく実績につながる方法を模索していきたい。 ●キャリア教育の充実には保護者・関係機関等の協力が不可欠であることから、福祉・医療、労働等の行政や関係者が密接に連携しあえる機会の創出などを計画的、継続的に強化したい。 ●防災等危機管理は今最も注力すべき課題であり、保護者や地域、関係機関と行政で現実的な課題を共有し、実効性の高い取組（在籍児に特化した福祉避難所設置、備蓄品準備、マニュアル改定等）を早急に進めていきたい。
学校運営についての改善策	●人権・コンプライアンス研修では「子どもの尊厳の重視」をテーマに取組を蓄積してきたが、重度重複障がいのある児童生徒への教育支援はもとより、さらにその支援に携わる教員に向けた対応（ケアする人へのケア）までを視野に入れた取組を今後も大切にしていきたい。 ●働き方改革について、教職員の満足度を向上させるためには年間業務の見通しが持ちやすいよう丁寧な情報発信を心がけ、全教職員が一体感を持って業務に臨める体制作りが重要となり、Teams等のさらなる有効活用など情報共有の頻度・精度を高めたい。また年間休暇取得日数について目標未達成となったことから、業務の精選を進めつつ、休暇が取得しやすい職場作りを進めていきたい。